

第121号

2008

Mar.

3

きょうご な THE KIZUNA

いとしご増刊

<http://www.eonet.ne.jp/~asn/>

社団法人日本自閉症協会
奈良県支部ニュース

発行人：社団法人日本自閉症協会
石井哲夫
編集人：社団法人日本自閉症協会
奈良支部
支部長&事務局：河村舟二
〒639-1005
大和郡山市矢田山町 84-10
購読料1部 100円
会員は会費に含まれています。

今年の自閉症理解講座

2007年度独立行政法人福祉医療機構助成「自閉症児者の自立生活・就労支援事業」の最後の講座が2月23日に行われました。当日は奈良教育大の岩坂英巳氏ときょうこころのクリニックの姜昌勲氏による講座でした。予定していた参加者を遙かに上回る参加者で10年間続いた日本自閉症協会奈良県支部の今年度の講座を締めくくるにふさわしい熱気に満ちたものでした。特に姜先生にはご趣味の手品まで披露していただき、会場が盛り上がりました。振り返れば、日本自閉症協会奈良県支部が全国の最後の支部として平成10年に発足して以来、毎年必ず自閉症理解講座を行ってきました。

一層充実な内容に！

最初は、自閉症理解の初歩から概論的な講座を行い、次第に実践的な内容へと移って来ています。最近では、奈良県支部の自閉症理解講座は実践的で内容が濃く他の一般的で概論ばかりの講座とはひと味違うよ。という、うれしい評価を得ています。受講者もリピーターや口コミ参加者が圧倒的に多いようです。近隣の他府県からの参加者もおられました。2008年度発足の奈良県自閉症協会もこの講座を計画しています。正式に決まり次第皆様にお知らせします。是非ご参加下さい。(河村)

以下は今年度取り組まれた講座の内容です。

★第1回講座 5月26日(土) (やまと郡山城ホール小ホール)

発達障害の理解のための基礎講座1 講義テーマ 「自閉症の支援 ～知的に遅れのある方から 高機能まで～」 講師 内山 登紀夫 氏 (大妻女子大学教授)

よこはま発達クリニック院長)

★第2回講座 9月8日(土) 奈良県文化会館小ホール

実践講座1 テーマ「自閉症児を就労へ導く子育て」～仕事ができる大人になるために～

講師 上岡 一世 氏 (愛媛大学教育学部 教授)

★第3回講座 10月27日(土) 奈良県文化会館小ホール

実践講座2 テーマ「特別支援教育と自閉症のある子どもの学校教育」

講師 越野 和之 氏 (奈良教育大学 准教授)

午後講義 テーマ 自閉症の人たちと地域生活の支援

福森るり氏 (幼児期の支援：保育所巡回相談) 三輪 亮一氏 (奈良地域生活支援ネットワーク) 渡辺 哲久氏 (ひまわりの家施設長)

★第4回講座 12月8日(土) 奈良県中小企業会館4F

実践講座2 テーマ「行動上の問題の理解～コミュニケーション支援から考える～」 講師岡田 眞子 氏 (コクーンクラブ)

★第5回講座 2月23日(土) (やまと郡山城ホールレセプションホール)

実践講座3 テーマ「あなた(親・保育士・教師・支援者)が変わると子どももかわる～ペアレントトレーニングについて～」

講師 岩坂 英巳氏 (奈良教育大学 特別支援教育センター)

午後テーマ「自閉症の兄弟への支援」 講師 姜 昌勲氏 (きょうこころのクリニック)

自閉症理解講座

アンケート まとめ

■本日の内容はいかがでしたでしょうか？興味深かった点、理解できなかった点があればお書きください。

(教員)

- ・いつもながら充実した内容でした。
- ・ペアレントトレーニングの具体的な内容が聞けてよかったです。
- ・(ペアレントトレーニングの話聞いて)悪循環に陥っている場合、あせればあせるほど、のがれられなくなることが多いです。教員でも同じです。良い関係がとれるようヒントをたくさんいただきました。
- ・ペアレントトレーニングの具体的な考え方がわかりました。
- ・後半の子供さんのお母さまたちから日常生活(学校外)の話や抱えておられる悩みを聞かせていただき、おうちの方々の生の声が聞けてよかった。
- ・できないことや問題行動にばかり目を向けたり見たり

・ペアレントトレーニングの具体的な流れを教えていただきとても勉強になりました。書物からは読みとれなかった部分もあーそういうことかと理解できる点がたくさんありました。

・幼児において言語以外でのほめ方を具体的に知りたかった。(言語でのやりとりが難しい子に好ましい方法だと気付かせる方法)

・障害にあるなし私もないな〜とずっと思っていました。障害を理解すること、一緒に過ごすことで益々そう思います。それをたくさんの人に理解してほしい。支援をしていくことで、障害の方が地域で生活していくことを手伝っていききたいと改めて思いました。

・(兄弟支援)本人の話やお母さんの読んでくださったお手紙を聞かせていただいて、なるほどな〜と思いました。まだまだ保護支援でいっぱい状態ですが、今後は兄弟支援にも広げていききたいと思います。

(保護者)

- ・常日頃思っているが、よく観察して原因を探ることがとても重要で往々にして、『なぜこんな行動を起こすのか?』がわからないことがとても多い。毎日の生活の中で、気をつけて原因を探してみたい。
- ・体が大きくなってパニックを起こしてもそれに負けな

せず、良いところやできること、プラス面を見つけるようにしていきたいと思います。

・今日は良い話をたくさん教えていただきありがとうございました。無視してほめることを待つ。という話などとても興味深かったです。

・家族はありのままの要求をぶつけ合いながら、家族の分かり合える無意識の安定化ばかりを維持してきている。その分かり合えるレベルに達成するまでに、様々な症状なども出てくるが『しょうがい』の有無という因子は確かにありますが、一つにすぎないという印象を受けました。

・ご兄弟の貴重なお話をうかがうことができ、とても良かったです。障害のあるなし、診断名の有無など狭い考えに囚われず、広い大きな見方で一人一人の子供さんたちと歩んでいきたいと思いました。

(福祉関係者)

・日頃、障害のあるお子さんや保護者の方に支援の側から接することが多い私ですが、お伝えがうまく実践につながらなかったり、十分な対応ができなくて、反省の日々です。ペアレントトレーニングの中に何かヒントがと思って参加しました。大変参考になり、また一步踏みだし学びの課題が見つかりました。

いで(・正しいことを教える。悪い習慣を変える)一貫するのかが疑問である。

・以前にペアトレを受講して卒業したが、ペアトレの内容を忘れかけてきたので、思い出したりするために参加しました。

・先日ペアトレを受けたので、内容の方がよくわかりビデオで関わりの仕方を見て、そうそうと思えた。

・ペアトレ卒業生です。昔受講したことを思い出しました。

・ペアトレについて、ほとんど知らなかったのでも勉強になりました。自分がしてきた努力の足りないところがわかりました。

・ペアレントトレーニングというものがある。とても具体的にこうすれば終了時には行動に変化が出るということはわかりました。ただ個人で具体的にこういうケースでは(TVを止めて宿題をするなど)というところをもう少し多く場面があれば集団でなくても取り入れていけるものが多いかなと思います。

・できることは実践していきたいと思っているので、どんどん参考にしていきたい。

・ペアレントトレーニングということばをよく耳にしますが、具体的な内容、流れが聞けて良かった(複数回答)

- ・普段見過ごしてきたことを、一瞬立ち止まって新たな気持ちで心がけて生活していけるように感じた。
- ・参加者の悩みを聞いたことにより、今後の参考になりました。定期的に開催していただくことを強く希望します。
- ・大変勉強になり是非ペアレントトレーニングに参加してみたい気持ちになりました。
- ・ペアトレの「主導権は親」という話を最後にお聞きできて良かったのですが、具体的な事例がもう少し聞けたら嬉しかったです。
- ・とても良かったです。子供に対する接し方の点で参考になります。
- ・このような講座は初めての参加です。今後今日教わったことを基本に生活していこうと思いました。
- ・ペアトレの活用により特に「ほめる」うまく「無視する」事によって子供も変わっていくケースも多いことがわかった。私自身子供への関わり方をもっと勉強していこうと思いました。
- ・行動を3つに分けて分析するということが参考になりました。ついできないことが気になりがちだが、分析して対処の方法をもっと工夫してほめることでよくしていきたい。

くことがなかったのととても参考になりました。楽しい講演でした。

- ・PDDの子供本人だけでなく、兄弟への配慮も大きく考えることだと感じました。
- ・お兄ちゃん（男性の方）は、お母さんにとってもとても頼りなる息子さん（お兄ちゃん）だと思います。お姉ちゃん（女性の方）はすべてを受け入れ、自分自身もポジティブに活動したり、こういう場で思いを発表してくれたり、前向きな方だと思いました。
- ・姜先生のお話は変な言い方ですが、重くなりすぎず良かったです。
- ・診断するというのは障害のある人たちによりよいサポートをするため、健常・障害を分けて考える為ではない！！という考えに賛同しました。

(その他)

- ・大切なテーマですが対応の難しいテーマとしましたが、配慮すべき事などについてわかりやすく説明いただき、勉強になりました。
- ・ペアトレがあることは知っていましたが、どのようなものが詳しく知ることができよかったです。
- ・指示の出し方（具体的に）CCQ、ほめて終了がわかりやすかった。

- ・子供をしっかり観察する。それが基本なんだな～と思った。ペアトレはTEACCHと共通することも多いように感じた。
- ・兄弟たちの話を聞かせて頂けて本当に良かったです。ありがとうございました。すてきなお兄ちゃん、お姉ちゃんに勇気づけられました。
- ・もしかしたらつらい思いもあったのかもしれないのですが、今ではすべてを受け入れて、「障害あるとかないとか関係ない」とさらりと言っておられたことに感動しました。
- ・思春期によるものか・・・兄弟のことでなのか？生活の質、できることが減ってないか？コミュニティーできているかチェック。
- ・姜先生の話とてもわかりやすく参考にさせていただきます。兄（健常児）に対しての接し方に問題など見直す点がたくさんありました。
- ・ご兄弟の生の声が聞けたことはとても有意義でした。手から離れて小学校を一緒に通う時期を共有しないと、周りの反応を受けずにネガティブにいられると思います。妹、弟の手紙は年が近いのでけんかもあり身近に感じた。
- ・兄弟のことが気になっていたのですが、今まで話を聞

・ほめるのはすべてできてからでなくても、途中でもほめてよい。というところがわかって勉強になった。

- ・兄弟の話が聞けてとても興味深かった。
- ・うとましく思ったり、嫉妬したりする感情はあたりまえだということが聞いてほっとしました。
- ・午前のペアトレの話は特に段階を経なければならいということが過程ということが、わかりやすく説明されて良かったです。学校関係者からの関わりがもう少しあればありがたかったのですが・・・。
- ・午後の部は自閉症の兄弟の内容でしたが、具体的な内容でしたのでおもしろかったです。
- ・（兄弟のかかわり）あまり取り上げられなかった内容でしたがとても重要な内容だと思いました。

■実践でいかすことが出来そうですか

(教員)

- ・できることから取り入れていきたいです。ほめることが基本ですね。
- ・日頃接している当事者が思春期以降なのですが、基本的な捉え方はわからないと思いました。
- ・つまずきを知って修正のモデルを示しながらの指導を是非これから実践していこうと思いました。

- ・まず良いところを探しほめる行動探しからはじめたいです。
- ・「がんばり表」なども参考になりました。
- ・教育相談
- ・同じように一人一人と関わるのは時間や量ではないんだと思いました。物理的なことをうまくやりくりしていけばいいと思いました。
- ・ペアトレは私自身（教員）のトレーニングとしても生かせそうです。
- ・兄弟への対応はクラスの自閉症児以外の他の児童への対応とも通ずるものがあるので参考にします。（福祉関係）
- ・「ほめる」「予感」は意識したい。
- ・自閉症児への話しかけ方・・・。特にVTRの人は利用者さんそっくり。自分では穏やかに接しているつもりでも、実際どうなんだろうと思うことがあります。してほしいこと、注意など伝えるときに反抗されるときがありますが、焦らず本人のためを思ってつきあっていきたいと思えます
- ・さりげなくほめる。を行う。普段事務所で主に放課後の学齢者の支援を行っています。ペアトレを一度持って帰って、上司に話してみたいと思えます。

きるかなと思いました。

- ・チャレンジしてみたいが、何ヶ月続けて無理だったらどのようにすればいいのか？うちの場合は「お母さん見て」と1日何回もアニメのセリフを聞かされる。無視するとパニックになる。だから1日の回数をあらかじめ決めてそれを3回→2回と減らせたと思う。うまくいけば良いと思っている。
- ・褒め忘れとか予告不足とか出てきたので、家に帰ってから、注意していきたい。
- ・言葉ではなかなか理解しにくい（発語も少ない）重度の知的障害を伴う自閉症児にも活用できるのだろうか？できるのであればどういう風にすれば良いかも少し聞きたかった。
- ・ペアトレで褒めることをとても大切にしてきたのですが、少しわざとらしくなりがちなのでさりげなく褒めること（ピンポイント）をできるようにがんばりたいです。
- ・できると思えます。無視の方法（今までもしていたが、失敗していたときの理由がわかった）
- ・「褒める」ことの大切さはわかったつもりだが、褒める量がまだまだ足りなかったとわかった。
- ・子供の様子を観察することをやってみたいと思えます。
- ・まずはほめることと観察することから始めたいと思

- ・まず私自身の学びが必要であり努力していこうと思えました。
- ・数年前にうちの施設でもPT, SSTを始めようと皆で勉強中です。まずはメンバーの共通理解から始めたいと思います。（保護者）
- ・PDDとか関係なくほめる事の大切さを考えながら、実践していきたいと思う。立ち止まるということで色々と考えていけそうです。
- ・ネットワーク作り
- ・行動化することを今までどのようにしていけばいいか悩んでいました。でも話を聞いて具体的にどうすればいいかわかったみたいです。
- ・姜先生のお話が具体的でとても参考になりました。先生は問題のあるケースをうかがっているの・・・と言われていましたが、うちは将来起こるであろう兄弟の葛藤にどういう風にそれぞれの気持ちを受け止めてやればよいか、心構えを持ちたくて参加しましたから、兄弟も愛情を注ぐことを（目配りしてギュッとすることを）心掛けていきたいと思えます。
- ・日々の生活の中だと怒ってしまいがちですが、トレーニングという風に割り切ったらもう少し親も根気強くで

ています。子供が診断を受けてから、すべて手探りで過ごしてきました。それが子供に対してどうなのかと思いつながらだったんですが、取り入れている部分もあり、続けていく自信が持てました。

- ・三つの行動類型分けにおける中で、【減らしたい行動】で無視による留意事項。
- ・「自分が独占している」感覚を持たせられるようにすること。
- ・ほめて育てるということで姉たちにも応用しながら日常取り入れられそうです。
- ・ペアトレを実践してみたい。
- ・少しずつではありますが接し方ほめ方について成長していきたいと思えます。
- ・春に小学校入学なのでためしてみたいと思えます。
- ・ペアトレでは上手な指示の出し方がとても参考になりました。特にCCQは私ができないことだったので、気をつけなければならないと思いました。
- ・兄弟に対しての支援については「相手を責めるのではなく、アイメッセージで」というところがとても勉強になりました。
- ・親としての役割の仕方が大変よくわかりました。
- ・VTRで見た指示の出し方のポイントがよくわかった。

・兄弟げんかをよくするのですが、いきなり怒るのではなく、「何がおこったの?」と聞いてやることをやってみようと思います。

・兄弟それぞれのハードルの高さを与えて、セルフコストームを形成させること。他の子へも目配りを忘れず少しの時間でもしっかりと向き合いみとめてやる。

(その他)

・親御さんに特に兄弟関係について聞かれることがあり、告知の方法など為になりました。

・自閉症の子を持たれたお母さんの不安悩みなどたくさん聞きました。

・親御さんの面接で具体的に生かすことができると思います。自分でいつもいっていることがより整理されたような気がします。

・ペアトレ、ティーチャートレーニングを学校でも実施していけたらいいなと思います。特別支援学級のお誕生日会(年2回)がかなりお母さん方の交流の場になっていることを感じます。そういう場も兼ねて学校で集まってできないかな～と思います。学校に持って帰って相談したいです。インストラクター養成講座をもっと広げていってほしいです。

・CCQは実践していきたいと思います。(ずっとお

ちついた声で接することができるかは自信ありませんが・・・)

・保育園に勤務していますが気になる子がふえているような気がします。保護者とのやりとりの中で他の子と違うことをどの様にしたらいいのか知りたかったので、今回の講演を参考にしたいと思います。

・兄弟関係について母の負担は大きいと思いますが、アドバイスの上で非常に参考になりました。

■ 今後どのようなテーマの勉強会に参加されたいと思いますか?

(教員)

・ティーチャートレーニングのワークショップ

・心理面のお話、特に二次障害に陥ったときの基本的な知識を知りたいです。

・ADHD、LD、アスペルガーなどのたくさんおケースを知りたいです。具体的に保護者、本人からの話が聞けたらと思います。

・具体的な支援

・応用行動分析

・就労の課題についてもあれば・・・

(福祉関係者)



・PTのインストラクターの講座を実施してほしい

・ペアトレの実践例の紹介

・自閉症者の就労支援

・主に青年期(18歳以上)の方との関わり

・うちは乳幼児の保護者が多いのですが、自閉症児のお母さんはもう一人ほしいけどもう怖くて下の子は産めませんとおっしゃる方が多いです。(肢体不自由、ダウンちゃんたちのお母さんはこの子の為にもたくさん産んで、自分たちがいなくなった後も兄弟でこの子を見てほしいと言われます)この違いは何なんだろうと支援者として悩んでいます。将来的な見通しが持てず不安?兄弟支援が不十分?私たちにできることは何?何か私たちにヒントになるような研修をお願いします。ヒントをもらって自分なりに今後のことを考えて行きたいと思いません。

(保護者)

・ペアトレ、ソーシャルスキルの育て方、コミュニケーションの支援等具体的なもの

・次のペアトレの講習会も出ようと思う。

・想像力の支援

・感覚統合の理論と実際

・就労支援

・実際就労されている方のお話など聞いてみたいです。

・実践(幼児・小学校)

・発達障害の子供たちの学校生活においてよく起こりうるトラブルについて学校側はどのように対応してくれることによって子供は少しでも過ごしやすくなるのか。またその時の家の方での声掛け、フォロー、学校との連携等

・性の問題(教え方)

・心構えを持ちたいのでポジティブな話よりはネガティブな事柄をどう解決していくのかということをお話してほしいです。

・今は各校各地域によって全然違うように聞いています。他の取り組みなど(北海道や横浜や兵庫など色々なことに取り組んでいると聞きます)お聞きしたいです。

・兄弟のテーマはとても良かった。また兄弟自身も参加できるような形のものがあればいいと思います。

・周囲の子供たち、兄弟、本人に対して障害をどのように伝え、納得させるか?

・兄弟の問題行動への具体的な対応

・思春期、青年期における問題点の解決例なども聞きたい。また、兄弟とも思春期で難しいのでそういう話にスポットを当てた勉強会に参加してみたい。

- ・ TEACCH について興味があります。できたらたくさん
の知識を得たいと思っているので。
- ・ 成人以降で発達障害と診断されたような障害者に対す
る取り組み（親の留意する事項や自立へ向けての取り組
み方）等の勉強会を希望する。
- ・ 就学に向けての支援
- ・ 将来の就業に向けてもっと情報をいただけたらと思
います。
- ・ PECS の勉強会
- ・ペアレントトレーニングも大事ですがもっと講習会を
増やしてほしいです。親は障害の子供を持って大変心身
共に疲れるのでそのフォローアップをしていただける場
を作っていただき「託児所」も設けてほしいです。
(その他)
- ・ SST, PT
- ・ 学校で実施できるトレーニングなど
- ・ 家族以外の周囲の人（近所等）にどの様に理解して
もらえるか？
- ・ きょうだいへの支援また機会があればセッティングし
てほしいです。
- ・ 岩坂先生の講演で話されたテーマ（発達障害を持つ子
への関わり方）を自分なりに更に学んでいきたい。

阪で開催。昨年ダブった。

NHK フォーラムは 6 月、12 月、2 月、3 月毎年開催
するが、12 月は高機能自閉症関係をしている。10 月
は避けるべき。大野支部の交通費はこれまで一律 2000
円にしているが、距離の違いもあるので、特に遠距離の
方を考えた配慮が可能であればよいのでは。大久保
重度の自閉症の人たちが疎かにならないように。岩本
議題 2：理事会報告 大久保より

添付資料：

- ① 48 回理事会報告資料 内規 2008 阿蘇案。
- ② 49 回理事会報告資料（H20 年度事業計画案、H20
年収支予算案審議について）

49 回理事会資料 21 ページ。高山内規案意見書
ブロック理事 年 1 回はブロック会議する。会場費は
本部が見てくれると思うが交通費は地元負担になるか。
常務理事は総会で承認が要る。任期は理事と同じ。

今年は 6 月 29 日総会予定

他、飯島氏が 1 月から正式退職届、以後 1 年経過も休
職時は自動的に退職になる。

議題 3：各支部状況

[滋賀] 先日 2 月 15,16,17 日アメニティフォーラムが
滋賀/大津で開催。アメニティフォーラムとしては今年

事務局から

☆ 3 月 2 日に行われた近畿ブロック会議の報告書です。

日時：2008 年 3 月 2 日 13:00

場所：クレオ大阪西

出席者：和歌山支部/大久保、石橋、大阪支部/大橋、
井上、小川

京都支部/岡、宮内 兵庫支部/岩本 奈良支部/河村、
上島 滋賀支部/高木、脇阪、前田 NHK 大阪支局長
大野

議題 1：NHK ハートフォーラム開催内容について
大野、高木より

日程は 6 月 15 日 場所は滋賀/近江八幡市・男女共
同参画センターで講演者：田中康雄氏、明石洋子氏、シ
ンポジウムでは藤井茂樹氏、大久保尚洋氏含む。往復は
がきによる申し込み確認。無料追記、定員 500 名追記、
託児なし追記、チラシのトップ部の内容を再度見直して、
4 月から配布。

次年度以降の開催：持ち回りで進める。順番は京都、大阪、
和歌山、奈良、兵庫、滋賀の順で。LD の全国大会とブッ
キングしないようにしたいが可能か。2 年に 1 回は大

が 2 回目。名前が変わっただけで、毎年開催。

JDD ネットのブース協力参加。残り行事は 3 月の木
工教室。昨年 9 月に JDD ネット滋賀の設立。LD 親
の会、ADHD、高機能自閉症、ことばを育む親の会と
共に結成、第 1 回総会開催。新年度の会費は正会員が
6k ¥、賛助が 3k ¥

新年度の名称は「滋賀県自閉症協会」。任意団体で当面。
[京都] 新年度名称「京都府自閉症協会」。任意団体で。
将来は法人化予定。

会費 12k ¥、賛助 3k ¥。府南部に発達支援センター
ができた。京都府は京都市に自閉症児者が 2/3 いる。
北部は少なく。市内の児童精神科医が多く、府内での格
差がある。5, 6, 9 月と 3 回セミナー実施。5, 6 月幼少。
9 月は成人期の就労について。

[兵庫] 兵庫県自閉症協会 任意団体で。3/6 設立。
その後法人化予定。

会費は 6k ¥ と賛助は 3k ¥。3 月に組織変更。高機能
が 170 人いる。会費を下げしてほしいといわれているが
変更なし。

ブロック単位で、運営している。地方分権化が進み、支
部内でも代議員制をしていくことも必要か。

JDD 兵庫は LD が中心となり、2, 3 カ月に意見交換

している。

[大阪] 正会員は6k ¥、賛助4k ¥。3月に振込票送付、5月に催促。8月末まで待って、振込ない場合、会報ストップ。12, 1, 2, 3月は入会金は新年度にしている。12月臨時総会開催、名称変更、組織変更等 今まで支部で会費集め本部へ送金していたので、会費送金については支障ない。11月に堺で、発達支援センターができた(元こどもリハビリ事業センター)。6ブロック療育事業。支援費制度利用。TEACH等

[奈良] 奈良県自閉症協会にする。会費は正が6k ¥、賛助が3k ¥

3/30に解散。4/1に任意団体で。その後NPO化。福祉医療機構より助成金、2年に亘った助成。その次は特別で申請する。

セミナーは5回。①内山先生 ②ADHD

[和歌山] 和歌山県自閉症協会。NPOめざして。3/30設立。4/5申請。

正会員(親、当事者)7k ¥、(専門家、議員)4k ¥、賛助3k ¥

未納者は2年で自動的に退会。4回講演、福祉が3回で、医療機構が1、地方が1。

キャンプ2回。保健所にガイドブック(県が作成)を配布。

コミュニティボード 3月

療育キャンプは任意団体OK。NPO等法人は助成ない。夢基金はOK

議題4:近畿ブロック会会則(案)について 別紙会則案に基づく審議

会則を再度訂正し、メール等で確認し制定する。会長1名、副会長1名、会計1名。会計監査は皆です。副会長は会長が所在する支部でないところとする。会費は3k ¥/年とする。副会長は次期会長になる人とする。

次回近畿ブロック会議は、9月ごろ予定。別途事務局から案内。

年2回 3月、9月開催予定。場所は 大阪、京都がブロックの中心でよいが。

大阪はあちこち施設が解体される。橋下知事による。

理事は2期4年が内規。次期は奈良支部、その次は滋賀支部で。

会 長; 大久保(和歌山県自閉症協会)

副会長; 河村(奈良県自閉症協会)

会 計; 石橋(和歌山県自閉症協会)

☆奈良県総合リハビリテーションセンター20周年記念事業のお知らせ

花粉の舞い散る季節となってまいりましたが、みなさままいかがお過ごしでしょうか。奈良県総合リハビリテーションセンターの宮崎です。当センターは20周年を迎え、20周年記念事業を3月15日(土)10:00~15:00まで行います。

発達部門OTは多くの方に感覚統合を体験していただきたく、感覚統合療法室を開放いたします。OTグッズ、感覚統合グッズの展示、SST展示なども行います。お暇でしたら是非、お立ち寄りください。なお12:00~13:00は休憩しています。

詳細は当センターホームページを御覧ください。よろしく願いいたします。

奈良県総合リハビリテーションセンター <http://www2.mahoroba.ne.jp/%7Enarareha/>

☆19年度助成事業最終のリソースブックの作業

18年発行の冊子で お奨め本を掲載いたしましたが、昨年度に 掲載した意外に新たに発刊されたりした、新たに掲載するお奨め本がありました。ご連絡いただけますようよろしく お願い致します。今回は お奨

めのHPも掲載したいと思っております。是非いろんな方へご紹介したいHPやブログがありましたらご紹介の連絡をよろしくお願い致します。(上島) 今回の冊子の体裁は次のようなものです。

はじめに

目次

自閉症の支援について

・ 奈良教育大学特別支援教育研究センター

・ 奈良YMCA

追補版 相談先・サポート先

・ 新しい障害福祉サービスのしくみ

・ 生活支援の相談先

・ 相談支援事業・地域自立支援協議階 実施状況について

・ 福祉サービス事業所 一覧に

* 福祉マップ

保護者の体験より

自閉症の兄弟から

お奨めHP

お奨め本 自閉症版 その後追加

あとがき



☆日本自閉症協会 第49回理事会の概要 (2008.2.23)
平成20年2月23日(土)に第49回理事会を開催しました。

(議題)

第1号議案 平成20年度事業計画(素案)について

第2号議案 平成20年度収支予算書(素案)について

第3号議案 平成20年度暫定収支予算書(案)について

第4号議案 組織変更にかかる内規(案)について

上記の4議題についての議論を行いました。

第1号議案と第2号議案については、一括して審議され承認されましたのでこの素案を基に事業計画書及び収支予算書を作成し、6月29日に開催予定の総会に提案することとなりました。また、第3号議案については、収支予算書の審議が6月の総会になることから、4月から6月までの3カ月間の暫定予算を計上するものであり、原案通り承認されました。

なお、第4号議案の組織変更にかかる内規(案)については、第48回理事会から継続審議になっていたものであり、「社団法人日本自閉症協会入会基準(案)」、「団体加盟会員(都道府県・政令指定都市自閉症協会)の構成員について(案)」、「社団法人日本自閉症協会会費等

規定(案)」、「社団法人日本自閉症協会役員の選出についての内規(案)」、「社団法人日本自閉症協会代議員の選出について内規(案)」、「団体加盟会員認定に関する内規(案)」、「地方ブロックに関する内規(案)」、「旅費等に関する内規(案)」が提案されました。

この内規のうち、ブロック理事の選出方法について、多くの意見が出されたために、最終的には「社団法人日本自閉症協会役員の選出についての内規(案)」についてのみ三役会に調整を委ね、他の内規(案)については承認されました。

☆日本自閉症協会各種会議の開催予定について

○ ホームページ委員会

平成20年3月15日(土) 15:00~18:00
本部事務所

○ 第5回出版企画委員会

平成20年4月8日(火) 18:30~20:30
明石町区民会館(東京都中央区)

○ 第50回理事会

平成20年6月29日(日) 10:00~12:00
友愛会館

○ 第20回総会

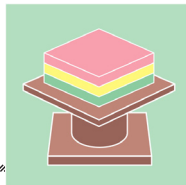
平成20年6月29日(日) 13:00~15:00

友愛会館

○ 第20回全国大会

平成20年7月19日から20日

熊本市民会館(メイン会場)



☆奈良県支部会員各位

皆さんが力を合わせて取り組まれた助成事業活動(H18年度分)について次のような文書が送られて来ました。ベスト20に選ばれるかも知れません。河村

事務連絡

平成20年2月29日

社団法人日本自閉症協会様奈良県支部様

独立行政法人福祉医療機構

基金事業部

平成18年度助成事業の広報について(依頼)

当機構の長寿・子育て・障害者基金の運営につきましては、平素よりご協力をいただき、ありがとうございます。

さて、とう機構の助成事業につきましては、とう機構の中期計画及び年度計画において、全助成事業を対象として事後評価を実施し、その評価結果をホームページ、

広報誌などで公開するとともに、評価結果の公表にあたっては特に評価の高い事強を20事業以上選び出し特に明記するとともに年2回以上の各地での事業報告会、年4回発行する広報誌等で紹介し、広く周知を図ることとしております。

貴団体が平成18年度に助成を受けて実施した事業につきましては、昨夏に実施いたしました当機構の基金事業審査・評価委員会評価部会委員等によるヒヤリング評価又は当機構事務局による書面評価において、特に優れた事業と認められた事業として評価・選出候補となっております。

特に優れた事業と認められた事業に選出(3月7日決定予定)された場合、当機構の中期計画及び年間計画に基づき、当機構ホームページ及び事後評価報告書に事業内容、評価できる点等を別添のとおり公表させていただきます。ご了承お願い申し上げます。

なお、別添の記載内容に事実誤認等がございます場合は、平成20年3月4日(火)までに下記の間合せ先までご連絡くださいますよう重ねてお願い申し上げます。

【問合せ先】

独立行政法人福祉医療機構 基金事業部 評価課 南、
畝山 TEL 03-3438-9942 FAX03-3438-0218

☆財団法人たんぼぼの家主催：「発達障害のある子どもとアート活動」フォーラム

フォーラムでは、発達障害のある子どもたちとアート活動を実践している実践者、研究者のみなさまと一緒に、発達障害のある子どもたちの生きる力を育むアートの可能性について話し合われます。

■日時：2008年3月23日（日）13：30～16：30

■会場：松下HはPビル5階 H会議室

（大阪市／京橋・大阪ビジネスパーク内／）〈事務局・連絡先〉 財団法人たんぼぼの家

〒630-8044 奈良市六条西3-25-4 電話

0742-43-7055 Fax. 0742-49-5501

e-mail ableart@popo.or.jp http://popo.

or.jp

☆奈良県支部の事業が次のような評価を受けました。お知りおき下さい。（河村）

事務連絡

平成20年3月10日

社団法人日本自閉症協会奈良県支部 御中

3. 広報誌等での広報

広報誌等での広報につきましては、平成20年度に発行する当機構の基金情報誌「いきいきチャレンジ」等で紹介することとしており、その際には当機構が委託した業者が現地を訪問させていただき、事業内容や具体的な成果等について取材させていただきますので、その際にはよろしくご協力をお願いいたします。

1. 事業報告会での活動報告

事業の効果や活動のノウハウを同様な活動を行う団体に紹介し、今後の活動の参考にしていただくための事業報告会を平成20年度に開催することとしておりますので、貴団体にこの事業報告会での譜軌報告をお願いした場合には、お忙しいところ大変恐縮ですが、よろしくご協力のほどお願いいたします。

問い合わせ先

独立行政法人福祉医療機構基金事業部評価課 南、畝山

TEL 03-3438-9942 FAX 03-3438-0218

独立行政法人福祉医療機構

基金事業部 評価課

特に優れた事業と認められた事業について

当機構の長寿、子育て障害者基金の運営につきまして、平素よりご協力をいただき、ありがとうございます。

さて、当機構は、平成20年2月29日付で通知いたしました「平成18年度助成事業の広報について（依頼）」については、正式に「特に優れた事業と認められた事業」の一つに選出されましたのでご報告いたします。

次のとおりホームページ、広報誌等で広報させていただくとともに、いくつかの団体につきましては、事業報告会での活動報告をお願いすることもありますので、あらかじめご了承いただくとともに、ご協力をお願いいたします。

1. 広報対象事業

発達障害者の就労・自立支援のための人材養成事業

2. 当機構ホームページでの広報

ホームページでの広報につきましては、3月下旬からの掲載を予定しておりますので、他団体からの問い合わせがあった場合には、ご対応方よろしくお願いたします。当機構ホームページアドレス <http://www.wam.go.jp/wam/>

読

売新聞記事に対する日本自閉症協会の対応について

日本自閉症協会として次のような対応を行いましたことをお知りおき下さい。（河村）

＜概要＞2月23日の読売新聞朝刊の1面および2面に掲載された特集記事「日本の知力」において発達障害に触れる記述がありましたが、その中に不適切な表現がありました。啓発・倫理委員会において検討し、三役のみなさまの了解をいただき、読売新聞社宛に書面で抗議を行いました。

＜読売新聞の記事＞

記事は、体を動かすことが脳の発達にもよいという仮説を中心に構成されたもので、発達障害を中心に記載したものではありません。その一部で、以下のように発達障害に触れており、不適切な表現がありました。

（問題部分の抜粋）

■用語の解説として記載された次の部分

発達障害 注意欠陥・多動性障害（ADHD）、学習障害（LD）、アスペルガー症候群などの総称。学習や言葉、対人関係などに問題が出ることが多い。

■本文（1面の5段目）学習、言語、コミュニケーションなどの発達障害は普通、心の問題だと思われる。

だが日本赤ちゃん学会理事長の小西行郎・東京女子医大教授（60）は、こうした障害も実は身体性が原因ではないかと考え始めている。「発達障害の子に共通する特徴は動作のバランスの悪さ。これが認知や言語の障害を引き起こし、さらにコミュニケーション障害にもつながっている」という仮説だ。

<協会としての考え方>

(1) 不適切な表現について、訂正記事の掲載を求める。

(2) 「発達障害」や「自閉症」について、正しい理解を広めるよう、協力をお願いする。

2008年3月7日

読売新聞社編集長 殿

社団法人 日本自閉症協会
会長 石井哲夫

2月23日朝刊に掲載された記事についての抗議と
お願い

日本自閉症協会は、2月23日朝刊に掲載された貴紙の記事『日本の知力』に不適切な部分があると考えております。このことに抗議をいたしますとともに、適切な対応をして頂き、発達障害についての正しい理解が広ま

1960年代前半までの誤った考え方が未だに広く認められていると捉えられる可能性があり、誤解を生じさせるものです。

3. 訂正および今後のお願い

1) 自閉症は発達障害の一つであることをご理解の上、訂正記事を掲載して頂き、「自閉症」を中心とした発達障害についての正しい情報を、例えば「シリーズ」などとして取り上げて頂きたい。

2) 「発達障害は心の問題」という記事について、誤解を生じさせないような説明を加え、訂正記事を掲載して頂きたい。

4. 自閉症に関する日本自閉症協会の考え方

1) 私たちは、発達障害を持つ人々が社会の中で共に学び、働き、暮らしていくためには、障害についての誤解をなくし、正しい認識を広めることが重要であると考えております。今回の貴紙の表現には、発達障害についての誤解が広まることを懸念される部分がありますので、記事の訂正や補足説明をして頂きますとともに、今後も正しい理解が促進されるよう、ご協力をお願いいたします。

2) 国際的診断基準の一つであるICD-10（WHO）にも明確に記載されておりますように、発達障害は、「中枢

りますよう、貴社のご理解とご支援をお願いいたします。

記

1. 不適切と考える記事

1) 用語の説明の中の、「発達障害 注意欠陥・多動性障害（ADHD）、学習障害（LD）、アスペルガー症候群などの総称。学習や言葉、対人関係などに問題が出ることも多い。」

2) 本文（1面の5段目）の次の部分。「学習、言語、コミュニケーションなどの発達障害は普通、心の問題だと思われる。だが日本赤ちゃん学会理事長の小西行郎・東京女子医大教授（60）は、こうした障害も実は身体性が原因ではないかと考え始めている。」

2. 上記の記事について当協会が問題と考えていること

1) 「自閉症」は、平成17年4月に施行された「発達障害者支援法」の第2条第1項「定義」に記載されている名称であり、発達障害を説明する記事から「自閉症」が削除されていることは不自然で、誤解を招くことが懸念されます。

2) 「発達障害は普通、心の問題だと思われる」という書き方は、後段の「こうした障害も実は身体性が原因ではないかと考え始めている」と併せて考えますと、「発達障害は心理的原因によるものである」という

神経系の生物学的成熟に深く関係した機能発達の障害あるいは遅滞である」とことと、「言語、視空間技能、協調運動」の障害が基盤にあることは、世界的に認められております。

3) 自閉症を含む発達障害は見た目ではわからないために、誤解されることが多く、そのことが社会参加の障害になることも少なくありません。当協会といたしましても、正しく理解して頂くように啓発活動を行っておりますが、多くの読者を持つ貴社におかれましても、発達障害の正しい理解が広まりますよう、ご支援を頂きたく、よろしくお願い申し上げます。

ご参考までに、当症協会が発行しているハンドブックを添付させていただきます。

なお、上記の要望についての貴社のお考えを速やかに頂戴したいと思っております。 以上

障 害保健福祉関係主管課長会議（平成20年3月5日）資料がASJ（日本自閉症協会）のホームページに掲載されていますので是非ご覧ください。奈良県の内容も掲載されています。（河村）